

## 「第6回 防災ワークショップ」に環境委員が参加しました



(柳田睦子氏によるはじめの言葉)

令和2年2月1日(土)に本校の環境委員2名が「第6回 防災ワークショップ」に参加しました。このワークショップは金程中学校区地域教育会議(議長:柳田睦子氏)主催で数年前から開催されているワークショップで、今回は「避難所運営を考える」をテーマに行われました。本校も数年前より参加しており、今年度は環境委員2名が参加しました。

始めに東京大学生産技術研究所教授の加藤孝明氏による「防災ミニレクチャー」がありました。多くの人の避難所に対するイメージは「公助>自助=共助」であるのに対して、実際の避難所は「自助>共助>公助」であることに触れ、避難時には「自己完結+地域完結」の意識を持って行動することの重要性を指摘されました。



(加藤孝明氏による「防災ミニレクチャー」)

次に川崎市麻生区役所危機管理担当の中島健太氏の説明のもと、6~8人のグループに分かれ「川崎版 HUG」を行いました。「HUG」とは「Hinajo(避難所)Unei(運営)Game(ゲーム)」の頭文字をとった名称で、実際に避難所を運営するというシミュレーションゲームを通して、実際の避難所運営で直面しうる課題を確認する活動です。



(中島健太氏による川崎版 HUG の説明)



(話し合いながら図面にプロフィールカードを並べてゆきます)

前半ではあらかじめ用意された体育館、教室、校庭の図面に、プロフィールカードを置いて、プロフィールに書かれている条件、時々出てくる課題のカードに対応しつつ、避難所受け入れを進めてゆくという手順です。後半では各グループを巡回し、互いのアイデアを共有しました。初対面同士で話し合いながら最善の方法を模索するという大変臨場感のあるゲームでした。また、グループには様々な団体から参加された方々とランダムに構成されていたため、生徒たちも HUG での話し合いを通して地域交流、地域連携のきっかけを体験的に学ぶ機会となりました。



(HUG での話し合いを通して、地域連携を体験的に学びました)

川崎版 HUG の後、加藤氏、中島氏よりワークショップの総括がありました。

- ・中島氏： 避難所ではトイレの設置場所は特に慎重にするべきである。災害時はバキュームカーでの汲み取り式になる可能性があるが、設置場所を間違えると、車が入れず、人がトイレからくみ取って車まで運ばなくてはならなくなる。また、風水害の場合は災害がある程度予知できるので、備えを十分にいき、必要なものを調達してから避難することが重要である。
- ・加藤氏： 避難所運営は「ブリコラージュ(その場にあるもので臨機応変に解決する能力)」の構えが必須になる。本質的なニーズを見抜き、必要な課題に対してその場にあるもので解決する能力が大切であり、それは普段から習慣付けることによって身につく力である。したがって、普段の暮らしに盛り込むことが大切であり、その意味で「防災もまちづくり」であるという意識を持つことが必要である。



### 「参加した生徒の感想」

- ・ 災害になった時、被災者目線ではなく、受け入れる側の目線で見ることによっていろいろなことに気付くことができました。HUG の時に、他の人から自分が思っていたことと異なる意見が出たので、話し合いの大切さに気付くことができました。
- ・ 初めて防災のボランティア参加させて頂いて、今まで考えたこともなかった避難所の対応の仕方を学べて、他の人たちと協力してこのようなワークショップをやることはとても貴重だと思いました。この経験が少しでも未来に役立ったらいいと思いました。